

みなさんは「わすれられないおくりもの」という絵本をご存知でしょうか。

アナグマのお話の本と言ったらわかる人もいるかもしれませんが。私はこれからこの絵本を読んだ感想、そして伝えたいことをみなさんにお話しします。

まずあらすじですが、この絵本の主人公は今言った通り一匹のアナグマです。彼は物知りで賢く、自分がもうすぐ死んでしまうかもしれないということを悟っていました。けれど、彼は死んでからだがなくなってしまっても心は残り続けるということを知っていました。アナグマは他の動物たちと仲良く過ごしていましたが、ある日とうとう亡くなってしまいました。アナグマの友達たちは悲しくて仕方がありませんでした。そこでみんなはアナグマとの思い出を語り合いました。

モグラはハサミを使うのが上手です。しかし以前は紙一枚を切ることもすらすらとできませんでした。そんなモグラにハサミの使い方を教えたのはあのアナグマでした。カエルやキツネ、ウサギなど他の動物たちもアナグマから生きていく上での知恵や工夫を教わっていたのです。

私は幼いころ、この絵本を読んだときタイトルにもある「おくりもの」とは何のことだろうと思っていました。当時の私の中での贈り物のイメージは形あるものが前提でその上で高価なものや価値のあるものという認識でした。けれど、最近になってこの絵本を読み返してみて、人から貰うものは全てが全て形あるものではないと思えるようになりました。だれかが幸せになれたらいいなと思って考えたり行動したりすることなど、だれかを思ってしたことがその人の心の支えになってその人の心に残り続ける。目には見えないけれど、これこそが本当の「わすれられないおくりもの」なのではないかと思えるようになりました。

サン＝テグジュペリの有名な本にも「大切なものは目に見えないんだよ」というフレーズがあります。私はあの絵本を読み返してからこの言葉に深く共感できるようになりました。大切なものとは目に見えないからこそ大切であり、目に見えないからこそ大切にしなければならないのではないかと私は思います。たった24ページしかない絵本が私のものの見方を変え、そして本当に大切なものを教えてくれました。

私は女学院で2年と少しを過ごしていなかったら目に見えない大切なものとは何か、よくわかっていなかったと思います。私の場合、それは他者との信頼関係です。

私はテニス部に所属しているのですが、少し前に部活との向き合い方を改めるために中3で集まって話し合いをしました。どうしたら良いのかを一人ひとりで考え、自分たちの思いをみんなに伝えました。私も素直にテニスを楽しみたいと思え、且つメリハリのある雰囲気の中で部活をやりたいという意見を伝えみんながそれを受け止めてくれました。他にも自分たちの改善点やそれぞれが今不安に思っていることを包み隠さず真剣に話し合いました。最終的に中3から部活内の雰囲気を変える努力をしよう、という結論に至り同級生同士の信頼関係を築くことができました。

このような部活動での経験や毎日の礼拝で心に残る様々な聖句と出会ったりしたことが、私に目に見えないものの大切さを気付かせてくれました。

入学式から一か月と少しが経ち、一年生のみなさんも女学院の生活に慣れ始めたころだと思います。みなさんはこれから6年間を女学院で過ごす間、私と同じように部活や行事などの学校生活の中で多くのことを経験するでしょう。その中で目には見えないものの大切さに気付くきっかけをつかめる時が来るのではないかと私は思っています。そのきっかけをつかんで女学院での生活をより充実したものにしていってください。